

山口大学フォーミュラレーシングチーム

Yamaguchi university formula racing team

<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~formula/index.html>

初参戦山口大学チーム ～来年に向けて～



今回の総合結果・部門賞

●総合 83 位

Profile チーム紹介・今までの活動

今年度初参戦した山口大学フォーミュラレーシングチームです。今年度は財政難のため車両が完成せず、静的審査しか参加できませんでしたが、大会を見学し大会の雰囲気や流れを掴めました。来年度は、車両を完成させ動的審査への出場をめざします。

Team-member チームメンバー

松本 貴志 (CP)

瀬尾 健彦 (FA)

藤村 俊貴、添本 博樹、佐野 成太、徳政 剛、
蛭田 眞生、宗田 涼平、松本 凌汰、立石 寛達、
射場 脩太、岩井 健太郎、永田 拳太郎

Presentation

プレゼンテーション

我々山口大学フォーミュラレーシングチームは今年度初参戦であり、車両を走らせることを目標に取り組んできました。

今年度の車両コンセプトとして「ドライバビリティーの追求」を掲げ車両設計を行ないました。一般的にドライバビリティーとは運転者にとって好ましい運転特性と定義されていますが、本プロジェクトでは車両を走らせることに重きを置き、車両の軽量化および直進安定性確保の両立をめざしました。それに伴い車両重量、特にバネ下重量は路面追従性等の車両運動性能に大きな影響をおよぼすため、バネ下重量削減を目的としてタイヤおよびホイールを10インチに設定することにより、実現をめざしました。またエンジンは車両の中で最も重量の大きい構成部品であるので、本年度コンセプトを実現するにあたり軽量かつ低回転からトルクを発生する単気筒450ccエンジンを採用しました。加えて燃料噴射系にキャブレター方式を採用することで、セッティングのしやすさおよびメンテナンス性の向上を実現しました。またキャブレターはスロットルボディと燃料噴射装置を一体化することができ、構造を簡素化できるのも大きな利点でした。

今大会では残念ながら車両を作り上げ走らせることができませんでしたが、大会期間中に得たことは多く、意義のある大会でした。これからは新たなメンバーで来年に向け更に邁進して参ります。

Participation report

参戦レポート

今年度初参戦の山口大学フォーミュラレーシングチームです。今年度は財政難のため車両が完成せず、動的審査に参加できませんでした。

プレゼンテーションでは、全体の流れが分かりにくくスポンサー側に要求する内容が伝わりづらい発表となってしまいました。自分たちが何を求めて来た者で、スポンサーのどういうところが優秀で、どういったことを頼みに来たのかを明確にすることが重要だと分かりました。またパワーポイントの見せ方として図表を多く使用し、裏づけとなる数値を含んだ資料も少ないことなどの指摘を受けました。

コストレポートでは、自分たちのチームは資料の通過はしましたが、製造工程およびコストの関係を深く理解することなくコストレポートを作り上げてしまいました。フレームを製造する上での溶接する順番や治具を用いどのように固定するのかなどの裏づけ資料が抜けていることで、コストが正確かどうか分からないものとなってしまいましたので、今回は深く理解した上でコストレポートを完成させます。来年以降は車両特性や設計時の裏づけ資料を具体的な数値で示せるように改善することを指摘して頂きました。コスト審査やプレゼンテーション審査でも同様に裏づけを数値で示すことの大切さを学びました。

今回は静的審査しか参加できませんでしたが、大会を見学することで雰囲気や審査の流れを掴むことができました。来年度は車両を完成させ動的審査の出場をめざします。

Sponsors スポンサーリスト

川崎重工業株式会社、ソリッドワークス・ジャパン、サイバネットシステム、ANSYS